

民主化闘争情報

No. 912
2014年10月31日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

10月30日、衆議院予算委員会の「政治とカネ」問題などの集中審議において、NHKが全国に生中継する中、安倍晋三首相は民主党・枝野幸男幹事長への答弁の中で「殺人や強盗を行なった革マル派活動家がJR総連・JR東(労組)に影響力を行使しうる立場に相当浸透している」と厳しく指摘した上で「由々しき事態である」と警鐘を鳴らした。

安倍首相「革マル派が指導的立場でJR総連に浸透」 衆議院予算委員会の答弁で言及

「JR総連及びJR東労組内には、影響力を行使しうる立場に革マル派活動家が相当浸透していると認識している」とする答弁書が閣議決定されていることは既報のとおりであるが、安倍首相自ら、革マル派活動家が影響力を行使しうる指導的な立場でJR総連に浸透していると言及した。

とっさの答弁の中でJR総連への革マル派浸透問題が言及されており、安倍首相の脳裏に深く焼きついていることは想像に難くない。概要は以下のとおり。

(安倍首相答弁)

殺人や強盗や窃盗や盗聴を行った革マル派活動家が、影響力を行使しうる指導的な立場に浸透していると思われるJR総連、JR東(労組)。(中略)

殺人を行っていた団体ですから、そういう団体に影響力を行使しているのは由々しき問題ではないか。

一方、質問を行った民主党・枝野幹事長は官房長官時代の2011年2月1日の衆議院予算委員会において、JR総連からの政治献金の申し出を断る旨の答弁を次のとおり行っている。

枝野官房長官(当時)

「私は連合加盟の各産別とさまざまな意味でお付き合いをさせていただいており、その連合加盟の各産別とお付き合いをする範囲内で当該労働組合ともお付き合いをさせていただいてきたが、それ以上でもそれ以下でもない。今後については、「季下に冠を正さず」ということもあり、献金等のお申し出があってもお断りさせていただこうと思う。」

JR総連を巡っては、革マル派浸透問題、浦和電車区事件刑事裁判の最高裁上告棄却に続き、地位確認等請求の民事裁判も上告棄却と、もはやJR総連には「孤立の道」しか残されていないようだ！

JR総連の良識ある組合員の皆さん

安心できる職場の構築にむけてJR連合に結集しよう！